

ソ連共産党新指導部の  
いわゆる「共同行動」を反ばくする

---

外文出版社  
北 京

ソ連共産党新指導部の  
いわゆる「共同行動」を反ばくする

『人民日報』編集部

『紅旗』誌編集部

(1965年11月11日)

外文出版社

北京

## 目次

国際プロレタリアートが必要とするのは原則を基礎とした団結である……	5
フルシチョフ修正主義者は団結のための共通の基礎を破壊した……	10
敵味方の関係を転倒させている者とは共同行動がとれない……	15
ソ連共産党新指導部はベトナム問題でアメリカと共同行動をとっている……	21
いわゆる「共同行動」とは分裂主義をおしすすめる手段である……	28
いわゆる「共同行動」とはソ連人民をだますスローガンである……	32
フルシチョフ修正主義に反対する闘争を堅持しよう……	37

## ソ連共産党新指導部の いわゆる「共同行動」を反ばくする

『人民日報』編集部

『紅旗』誌編集部

(一九六五年十一月十一日)

### 国際プロレタリアートが必要とするのは 原則を基礎とした団結である

国際共産主義運動の歴史は、すなわち、マルクス主義が日和見主義、修正主義とたたかってきた歴史であり、マルクス主義者がプロレタリアートの国際的団結を守り、国際プロレタリアートを分裂させようとする日和見主義者、修正主義者に反対してきた歴史である。

中国共産党はマルクス・レーニン主義の革命的学説を堅持し、つねにプロレタリアートの国際的団結という偉大な旗を高くかかげてきた。資本主義と帝国主義に反対する闘争の中で、また世界革命の過程の中で、国際プロレタリアートは自分自身の力を結集するとともに、団結できるすべての勢力と団結してこそ、はじめて敵にうちかつことができるのである、とわれわれは考える。

5 共産主義学説の創始者、マルクスとエンゲルスは「万国のプロレタリア団結せよ」という戦闘的なスローガンをうちだした。このスローガンは全世界のプロレタリアを教育し、鼓舞し、解放をめざす各国プロレタリアート

の共同闘争を促進した。マルクスとエンゲルスの主張したプロレタリアートの国際的団結とは、プロレタリアートの全世界的な、偉大な歴史的使命を実現するために奮闘する団結のことである。

レーニンはマルクスとエンゲルスの事業をうけついで、マルクス主義を新しい段階へとひきあげた。レーニン主義は帝国主義とプロレタリア革命の時代のマルクス主義である。レーニンは一貫して、マルクス主義を基礎としてプロレタリアートの国際的団結を実現することを堅持した。帝国主義に反対する被抑圧民族の闘争がまきおこっているという歴史的条件のもとで、レーニンは「全世界のプロレタリアと被抑圧民族は団結せよ」という闘争的なスローガンをうちだした。このスローガンは西方諸国の労働運動と東方被抑圧民族の解放運動との共同闘争を促進した。これは国際的革命勢力のいっそう広範な団結であった。

第二次世界大戦後、毛沢東同志は国際的な階級関係と力関係の新しい変化にもとづいて、国際反米統一戦線の樹立というスローガンをうちだした。この統一戦線は、国際プロレタリアートの団結を中核とし、国際プロレタリアートと被抑圧民族の団結を基礎としている。この統一戦線は世界人口の九〇パーセント以上を占める人民大衆をしつかりと団結させ、またアメリカに侵略され、支配され、干渉され、いじめられているすべての政治勢力を団結させ、利用できるすべての矛盾を利用して、全世界人民のもっとも主要な敵アメリカ帝国主義を最大限に孤立させ、これに打撃を与えようというものである。このようにすれば、世界革命に有利ならゆる積極的要素を動員して、各国人民の革命闘争の勝利をかちとることができるのである。これは毛沢東同志が新しい歴史的条件のもとで世界革命について提起したきわめて重要な戦略思想である。

中国共産党は毛沢東同志の指導のもとに、一貫してプロレタリアートの国際的団結を堅持し、国際プロレタリ

アートと被抑圧民族の団結を堅持し、アメリカ帝国主義に反対する全世界のすべての勢力の団結を堅持してきた。われわれは終始変わることなくこうした路線を貫きとおして、偉大な勝利をかちとってきたのである。

マルクス・レーニン主義は、プロレタリアートの国際的団結が革命的な団結であり、原則を基礎とした団結であるということをし、われわれに教えている。こうした団結を実現するためには、いささかのあいまいさもなく、種々さまざまな日和見主義者、分裂主義者と断固とした闘争をおこなわなければならない。

マルクスはわれわれに、プロレタリアートの国際的団結の実現をめざす闘争のなかで、「決して原則をもって取引をしてはならない」と教えている。エンゲルスは日和見主義者と原則的な闘争をおこなわなければならないことを達成することはできないとのべて、「一致団結できる場合、一致団結するのはたいへんよいことである。しかし一致団結よりも貴いものがまだある」、「プロレタリアートの発展は、どのようなところでも、つねに内部闘争を通じて実現されるものである」①といっている。エンゲルスはさらに、「目先のことしか見えない連中は、いろいろなものをかきませて、どろどろのおかゆをつくりたがるものだ。おかゆが澄みさえすれば、差異がまえよりもいっそう鋭い対立としてむしろかえされる。異物どうしが一つのつぼに入っているからだ」②と指摘している。マルクスとエンゲルスは、「われわれはこの階級闘争を運動のなからまっ殺してしまおうとするものと行動をとることはけつしてできない」③とはっきり宣言している。

レーニンは、第二インターナショナルの修正主義者がマルクス主義を裏切り、帝国主義に反対する共同の事業を裏切り、自国のブルジョアジーの側に立って、独占資本の手先にまで墮落し、社会排外主義者になり下がりと、社会帝国主義者になり下がった、ときびしく非難している。

レーニンは、日和見主義と修正主義に反対する闘争は、プロレタリア政党の統一を破壊しないばかりでなく、その統一を実現するうえで欠くことのできないものである、と指摘している。レーニンは、「闘争がなければ、事態をはっきりさせることはできない。事態をはっきりさせなければ、順調な前進もありえず、しつかりした統一もありえない。それに、現在闘争をおこなっている人たちが統一を破壊することはけつしてない。統一はもはや存在していないのであり、統一はすでに破壊されており、全面的に破壊されているのである」、「公然たる、直接の闘争こそ統一を再建する必要な条件の一つである」④と語っている。

中国共産党はまさにマルクス・レーニン主義の原則的な立場から出発して、マルクス・レーニン主義とプロレタリア国際主義を基礎とする国際共産主義運動の団結を守るために、また反米統一戦線を強化、拡大するため、フルシチョフをかしらとするソ連共産党修正主義指導グループと長期にわたる闘争をおこなってきたのである。

われわれは、なぜ一九五六年にプロレタリアート独裁の歴史的経験にかんする二つの論文を発表しなければならなかったのか。なぜ一九五七年の宣言を制定するにあたり、一連の革命的原則を堅持し、さらに、ソ連共産党中央委員会に平和移行の問題にかんする覚書を提出しなければならなかったのか。なぜ一九六〇年に『レーニン主義万歳』など三つの論文を発表しなければならなかったのか。なぜ一九六〇年九月にソ連共産党中央委員会の通知にたいする返書のなかで、フルシチョフの一連の修正主義、分裂主義、大国排外主義の観点系系統的に批判しなければならなかったのか。なぜ一九六〇年の声明を制定するにあたり、一連の革命的原則をかさねてあきらかにすることを堅持し、また、すべての兄弟党に平和移行の問題にかんする覚書を配布しなければならなかった

のか。なぜ『国際共産主義運動の総路線についての提案』を発表して、現代世界革命の一連の根本問題にたいするわれわれの見解を、全面的にあきらかにしなければならなかったのか。なぜソ連共産党中央委員会の公開書簡にたいする九つの論評を発表して、おおよげにフルシチョフ修正主義を批判しなければならなかったのか。なぜソ米英三国条約を批判する一連の文書と論文を発表して、アメリカ帝国主義と手をにぎり、世界人民に反対するフルシチョフ一味の裏切り行為を暴露しなければならなかったのか。なぜ中ソ両党のたびたびの会談と往復書簡のなかで、フルシチョフ一味に瀬戸きわでふみとどまるよう警告しなければならなかったのか。これらはすべて、マルクス・レーニン主義を守り、マルクス・レーニン主義を基礎とした国際共産主義運動の団結を守り、アメリカ帝国主義とその手先に反対するすべての勢力の団結を守るためにはかならなかつた。

まさに中国共産党とその他のマルクス・レーニン主義政党が一連の断固とした闘争をおこなったからこそ、フルシチョフ修正主義はその破たんをやめ、フルシチョフ修正主義の創始者は絶体絶命の境地においこまれ、自分の掘った墓穴に入りこんだのである。

フルシチョフが失脚し、ソ連共産党新指導部が政権の座についてから、もう一年になる。ソ連共産党新指導部はフルシチョフと比較して、いったいどうであろうか。かれらはフルシチョフの修正主義と分裂主義の路線を改めたであろうか。事実がわれわれに教えているように、ソ連共産党新指導部が実行しているのはやはりフルシチョフの古い路線であり、かれらはただフルシチョフよりいっそう狡猾な、いっそう偽善的な二面的な手口を使っているにすぎないのである。

ソ連共産党新指導部は多くの演説、文書、論文のなかで、各国共産党と社会主義諸国の「共同行動」をさか

んに宣伝している。かれらは朝から晩まで、まこえのよい言葉を口にし、「一致団結」だとか、「共同して敵にあたる」だとか、「共同して帝国主義に反対する」だとか、「共同してベトナム人民の闘争を支持する」だとか、いろいろなことをいつている。これらはすべて、つくり話である。ソ連共産党新指導部の行動は、かれらのごうした言葉とまったく逆である。今年九月のソ連共産党中央委員会総会において、ブレジネフ・ソ連共産党中央委員会第一書記は一方では、公然と中国共産党を非難し、他方では、そらざらしく、「団結して帝国主義に反対しよう」とわめきたてた。こうして、かれらのニセの団結、真の反中国という、あの醜い姿がさらけ出されたのである。

ちやうど、もつとも侵略性にとんだアメリカ帝国主義が自分を平和を愛する天使にみせかけているように、最大の修正主義者と分裂主義者もやつきになつて自分をこのうえもなく団結を愛しているかのようによそおっている。ソ連共産党新指導部のいわゆる「共同行動」は、一つのペテンにすぎない。

ここで、われわれは「共同行動」にかんするソ連共産党新指導部のさまざまないつわりを一つひとつ反ばくするとともに、ここ一年の間かれらが国内外で働いてきた悪事をとりあげて、このペテンを白日のもとにさらしてみよう。

### フルシチョフ修正主義者は団結のための共通の基礎を破壊した

ソ連共産党新指導部が「共同行動」をふいぢようする論拠の一つは、すべての共産党には「共通したイデオロギー」と「共通した綱領」があるということである。

もともと、各国の共産党には「共通したイデオロギー」がある。マルクス・レーニン主義がすなわちそれである。また、「共通した綱領」がある。各国共産党が共同で制定した宣言と声明の革命的原則がすなわちそれである。だが、フルシチョフ修正主義者は各国共産党の「共通したイデオロギー」と「共通した綱領」を完全に裏切り、各国共産党の団結のための共通の基礎を完全に破壊したのである。

ソ連共産党新指導部はフルシチョフの衣はつを忠実についでいる。かれらはマルクス・レーニン主義者にならなかつたし、半マルクス・レーニン主義者にさえならなかつた。かれらはかけ値なしのフルシチョフ修正主義者であり、かれらが実行しているのはフルシチョフなきフルシチョフ修正主義である。一九六四年十一月、かれらは中国の党・政府代表団にたいし面とむかつて、国際共産主義運動の問題では、また中国に対処する問題では、かれらとフルシチョフの間にはすこしの違いもない、と語つた。かれらはたがたび、ソ連共産党の第二十回大会、第二十二回大会で制定された総路線は「過去、現在および将来にわたつて共産党とソビエト国家の全対内、対外政策の唯一の、ゆるがすことのできない路線である」⑤ときつぱりと声明した。

ソ連共産党新指導部はフルシチョフとおなじように、「平和共存」は「こんにちにおける世界の社会的革新のためのもつとも重要な条件である」⑥といふらし、二つの制度の「平和競争」をつうじてのみ「世界的な規模で資本主義にうちかつ」⑦ことができるのであるといふらし、「平和移行」の「機会がこれまでのなん倍にもふえている」⑧といふらして、帝国主義に反対するすべての革命闘争を否定し、それに反対している。

ソ連共産党新指導部はフルシチョフと同じように、プロレタリアート独裁とプロレタリア政党的解消を固持

し、「全人民の国家」と「全人民の党」を實行している。かれらは、そのうえ、「プロレタリアート独裁と同様に、全人民の国家は社会主義国家体制の発展の合法的な、すべての国家に共通した段階である」⑨ 「われわれの党の全人民の党への転化は」、「遠く国外においても重大な意義をもっている」⑩とのべている。

ソ連共産党新指導部はさらにフルシチョフ修正主義を發展させ、プロレタリアートの指導がなくても社会主義を實現することができるという誤った理論をおおびらに宣伝している。かれらは、資本主義世界の「あれこれの国では、労働者階級による直接の指導がなくても」、「社会主義的改造への移行を實現することができる」⑪などといっている。かれらは恥知らずにも、プロレタリアート独裁にかんするレーニンの学説を骨ぬきにし、「レーニンは非資本主義の道への移行を、プロレタリア党政党の指導する政權——それは、実際には、プロレタリアート独裁にはかならない——を樹立しなければならないということと結びつけてはいなかった」⑫などといっている。ソ連共産党新指導部のこうした言い草によれば、プロレタリア革命とプロレタリアート独裁はまったく必要でなく、共産党は完全に解消してもよいということになる。ソ連共産党新指導部がこのような、マルクス・レーニン主義を徹底的に裏切るもつとも反動的な理論をふいちようするのは、反共、反人民の反動派に思想上の武器を提供するだけでなく、民族民主革命の段階にある一部の国家と人民に、当面の闘争目標をあいまいにさせ、帝国主義と新旧植民地主義に反対する闘争任務を放棄せよとするものである。

ソ連共産党新指導部が固執し、發展させているフルシチョフ修正主義の理論と路線の本質は、資本主義世界においては帝国主義の支配を擁護し、社会主義世界においては資本主義の復活を實行することにはかならない。

フルシチョフ修正主義者とマルクス・レーニン主義者の間には根本路線のうえでの相違が存在し、原則的な是非のうえでの相違が存在している。こうした状況のもとで、マルクス・レーニン主義者とフルシチョフ修正主義者とのあいだに、なお「共通したイデオロギー」や「共通した綱領」といったものが存在しているだろうか。なお、団結のための共通の基礎といったものが存在しているだろうか。こうした状況のもとでは、われわれとフルシチョフ修正主義者の関係は、ソ連共産党新指導部がいつているように、「むすびつけるものの力が引きはなすものの力よりはるかに大きい」などといったものでは全然なく、現代のあらゆる根本問題について真向から対立しており、互いに引きはなすものこそあれ、むすびつけるものはなく、対立するものこそあれ、共通するものはないといったものである。

根本路線がくい違っている状況のもとで団結するということは、われわれがマルクス・レーニン主義を放棄し、かれらに追従して修正主義を實行するか、それともかれらが修正主義を放棄してマルクス・レーニン主義の軌道にたちもどるかのいずれかであり、それは二者択一の関係にある。こうした先鋭な問題で、われわれがどっちつかずのあいまいな立場をとることは、許されぬことであり、まったくの誤りである。

いったいソ連共産党新指導部に追従して修正主義の綱領のもとでの団結を實行するよう、われわれに期待するものでいいのか。それでは、かれらといっしょになってマルクス・レーニン主義を裏切り、各国人民の革命をもみけし、帝国主義の共犯者になるようわれわれに要求することになるではないか。いうまでもなく、われわれは絶対にそんなことをやりはしない。

いったいソ連共産党新指導部がマルクス・レーニン主義のすべての基本原則を裏切り、ソ米協調による世界支



配をやつきになつて追求し、各国人民の革命闘争に反対しているのをまのあたりにみながら、いつまでも沈黙をたもち、それを批判、暴露もせず、それに反対もしないようわれわれに期待するともいふのか。それではやはり、マルクス・レーニン主義を放棄し、各国人民の革命に反対するかれらの同盟者になり、帝国主義の共犯者になるようわれわれに要求することになるではないか。それもまた、われわれが絶対にできないのは、いうまでもないことである。

もしソ連共産党新指導部がマルクス・レーニン主義者との団結を真に望むならば、かれらはかならず修正主義の路線を改め、すなおに誤りを認めなければならない。かれらはかならずおおよけに、しかも丁重に、全世界の共産主義者と全世界の人民にむかつて、フルシチョフの修正主義、大國排外主義、分裂主義は誤りである、と認め、おおよけにソ連共産党第二十回大会と第二十二回大会の確定した修正主義の路線と綱領は誤りである、と認め、おおよけに、今後はけつしてフルシチョフ修正主義の誤りをくりかえさない、と保証しなければならぬ。といった、かれらがこのようにやれるというのだろうか。

マルクス・レーニン主義とフルシチョフ修正主義の対立は、プロレタリアートとブルジョアリーの二つの階級の対立であり、社会主義と資本主義の二つの道の対立であり、帝国主義に反対する路線と、帝国主義に投降する路線の二つの路線の対立であり、これは水と火のようにあい入れないものである。

レーニンは、「統一、これは偉大な事業であり、偉大なスローガンである！しかし、労働者の大業にとつて必要なのはマルクス主義者の統一であつて、マルクス主義者とマルクス主義に反対し、それをわい曲するものと統一ではない」<sup>⑩</sup>と語っている。

### 敵味方の関係を転倒させている者とは 共同行動がとれない

ソ連共産党新指導部は、たとえ理論と路線のうえで意見の相違があつても、それをたなあげにして、帝国主義に反対する実際の闘争のなかで「共同行動」をとり、「団結して敵にあたる」ことができる、などといっている。

理論と路線のうえでマルクス・レーニン主義とフルシチョフ修正主義との相違のなかで、もつとも先鋭な問題は、まさに、敵味方の関係をどのように取りあつかうかという問題である。いいかえれば、帝国主義に反対するのかそれとも帝国主義と連合するのか、なによりもまずアメリカ帝国主義に反対するのかそれともアメリカ帝国主義と連合するのかという問題である。こうした相違が、国際的階級闘争におけるもつとも重要な實際行動を直接決定しているのである。どうしてそれをたなあげにして、無原則的な、敵味方を区別しない団結をはかることができるだろうか。

フルシチョフ修正主義の反動性は、ソ米が協調して世界を支配するという路線に集中的にあらわれている。フルシチョフ一味は、敵味方の関係を根本的に転倒させて、全世界人民の主要な敵アメリカ帝国主義を自分のもつとも親密な友とみなし、ソ連のマルクス・レーニン主義者を含めた全世界のマルクス・レーニン主義者を自分のもつとも主要な敵とみなしている。

まさにこの問題で、フルシチョフは裏切者としての姿をさらけだしたのである。まさにこの問題で、全世界の

マルクス・レーニン主義者はフルシチョフ修正主義者ともっとも先鋭な闘争をおこなったのである。また、まさにこの問題で、フルシチョフ修正主義者は世界の革命的な人民から見捨てられたのである。

では、ソ連共産党新指導部はこの問題でどんな態度をとっているのだろうか。かれらはソ米が協調して世界を支配するという路線を改めたのだろうか。かれらは転倒させた敵味方の関係を正常にもどしたのだろうか。かれらは、アメリカ帝国主義と連合する勢力からアメリカ帝国主義に反対する勢力へと変わったのだろうか。

事實は、けつしてそうではない、とわれわれに教えている。  
つぎのことをみていただきたい。

第一、ソ連共産党新指導部は政權の座にいたとたんに、ジョンソンを「理性派」だ、「穩健派」だとさかんにちあげた。かれらはひきつづき、ソ米両国は「世界の運命を決定する」二大国であり、「両国の間にはひじょうに広範な協力の世界が存在しており」、「いまなお利用されていないひじょうに大きな潜在力がある」<sup>(14)</sup>などといふらしている。アメリカ帝国主義がベトナムで気違ひのように侵略戦争を拡大してからでさえ、かれらは相愛ならず、「アメリカとの関係を發展させ改善し」なければならぬ、とひたすら強調している。ときによつては、かれらもソ米関係は「凍結」の傾向にあるなどといわぬわけにはいかなくなっているが、それでもかれらはひそかにアメリカとの秘密外交を強化し、舞台裏での取引をやっているのである。

第二、ソ米英三国部分的核実験停止条約の締結こそ、フルシチョフがアメリカと連合して中国に反対した重要な指標の一つであった。ソ連共産党新指導部はこの遺産をうけついただけでなく、いまこの条約を基礎として、さらにアメリカといわゆる「核拡散防止」およびその他の「軍縮」という新しい取引について積極的に話し合っ

ている。それによって、かれらはソ米二大核覇王の世界における軍事面での独占的地位を保持して、中国やすべての独立・自主の国家に反対しようとしてくわだてている。

第三、アメリカ帝国主義は、世界人民の革命に反対する道具として國連を利用してゐる。フルシチョフもアメリカ帝国主義の必要にこたえて、國連をソ米二大国が世界を支配するための取引所とした。ソ連共産党新指導部は、この反動的政策をひきつづき実行している。かれらは、國連常設部隊設置にかんするフルシチョフの提案をかさねて提出した。かれらは國連で、コンゴ(レ)での「停戦」、「全国和解の実現」という決議に賛成投票をおこない、また、ドミニカでの「停戦」の決議にも賛成投票をおこなった。世界ちゅうのどこかで人民がたちあがつて反米武装闘争をおこない、どこかで反米武装闘争が勝利をおさめ、どこかでアメリカ帝国主義が失敗をなめて苦境におちいると、かれらは急いでとびだしてきて助け船をだしてやる。かれらはアメリカ帝国主義といつしよになり、ともに國連を利用して、帝國主義と新旧植民地主義に反対する勢力に打撃をあたえ、それを弱体化、分裂させ、アメリカ帝国主義の陣地をばん回、強化、拡大している。かれらは、革命の烈火を消しとめようとするアメリカ帝国主義の消防隊の役目を果たしているのである。

ことしの四月七日、ジョンソンはベトナムと東南アジア各国人民の反米闘争を破壊し、いつそう経済的浸透をつよめるために、ベトナム問題の「無条件討議」をもちだすと同時に、いわゆる東南アジア國際開發計画をさかんに宣伝し、そのうえソ連の参加を希望した。アメリカは「アジア開發銀行」の設立を、この計画を実施する一つの段取りとしている。ソ連共産党新指導部はジョンソンのよびかけにこたえて、こともあろうに、代表を派遣し、この十月バンコクで、アメリカ、日本および蔣介石匪賊一味、南朝鮮、「マレーシア」などかいらい集團の

代表と席を同じくして会議を開き、「アジア開発銀行」の設立準備にすすんで参加している。ソ連共産党新指導部は、こんなにも熱を入れて、アメリカ帝国主義との共同行動にうちこんでいるのである。

第四、ソ連共産党新指導部は、フルシチョフの経営した「三尼会社」(中国語でニキータ・フルシチョフは尼基塔・赫魯曉夫、ケネディは肯尼迪、ネールは尼赫魯。三尼は以上の三つの尼を指す。訳注)の旧事業をうけつき発展させている。かれらは、アメリカ帝国主義にあやつられていゝインド反動派といつそうかたく連合して、中国に反対している。かれらは、シャストリのソ連訪問中に、インドへの九億ドルにのぼる援助供与をふたつ返事で承諾したが、それはフルシチョフが九年間にインドに供与した借款の総額を上回っている。かれらはインドにたいする軍事援助計画の実行に拍車をかけ、アメリカと提携して、インドの軍備拡張をたすけ、インド反動派をソ連製の兵器で中国その他の隣国に反対させている。

さいきん、インドのパキスタン武力侵略と中国・インド境界問題で、アメリカと連合しインドと連合して、中国に反対し、侵略者を支持するソ連共産党新指導部の醜い姿が大きく暴露された。ソ連とアメリカは国連の内外で、互いに唱和し、声をそろえて中国に反対している。一九六五年九月のタス通信はインド・パキスタン武力衝突について声明を発表し、暗に中国を攻撃した。「ブラウダ」紙は、中国・インド境界問題でいつそうおおびらにインドと連合して中国に反対している。人びとは、一九五九年九月、フルシチョフが中国・インド境界問題にかんするタス通信の声明という形で、公然と中国に反対しはじめたことを思いおこさずにはいられないだろう。しかし、当時のフルシチョフは、いまのソ連共産党新指導部にくらべると、まったくのかけだしであった。中立をよそおうフルシチョフのあの小さなイチジクの葉さえ、ソ連共産党新指導部はきれいさっぱりとかなぐり

捨ててしまった。アメリカ帝国主義が拍手喝采して、米ソ協調の「新時代」が出現したとよろこんだのも無理はない。

ソ連共産党新指導部の人をまどわす点は、かれらが、ときには、アメリカ帝国主義にすこしばかり悪態をついてみせるというところにある。なぜ、かれらはそうしなければならぬのだろうか。それは修正主義者自身の必要によるからであり、またアメリカ帝国主義者の必要にもこたえられるからである。フルシチョフ修正主義者は反米の素振りをしてみせる必要がある、そうしてこそ、かれらははじめてアメリカ帝国主義を効果的にたすけ、大衆をあざむき、革命を破壊することができるのである。そうしなければ、かれらは欺まんの役割を失ってしまふことになり、それはアメリカ帝国主義にとって、かえって不利なのである。すこしばかり悪態をついて大いに手だすけをする——つまり、このようにしてソ連共産党新指導部はアメリカ帝国主義のお先棒をかついでいるのである。

マルクス・レーニン主義者と革命的人民は、民族主義国家の上層の人びとと団結し、反帝闘争のなかでかれらとの共同行動をもちとることができるというのに、さらに反米闘争のなかで帝国主義諸国間の矛盾さえ利用しなければならぬというのに、なぜソ連共産党新指導部とは共同行動をとることができないのか、とたずねる人がいる。

それは、現代においては、アメリカ帝国主義に反対するのか、それともそれと連合するのかが、あらゆる政治勢力について、それが反米統一戦線のなかに含めうるものかどうかを見合わせる主なバロメーターだからである。

アジア、アフリカ、ラテンアメリカでは、帝国主義の手先をのぞけば、多くの民族主義国家の上層の人びとは、程度の差こそあれ、アメリカをかしらとする帝国主義と新旧植民地主義に反対しようとする要求をもっている。われわれは反帝闘争のなかでかれらと協力しなければならぬ。

アメリカと鋭い矛盾をもっているその他の帝国主義国の独占ブルジョアジーのなかでは、いちぶのものはアメリカ帝国主義に追随しているが、他のいちぶのものは、程度の差こそあれ、反米の要求をもっている。世界の人民は反米闘争のなかで、反米の要求をもっているものと、あるいはいくつかの問題で、ある程度の共同行動をとることが出来る。

問題はまさに、ソ連共産党新指導部がまったくアメリカ帝国主義に反対せず、しかもアメリカ帝国主義と同盟を結び、アメリカ帝国主義と連合して世界を支配しようとしているところにある。このようにして、かれらはみずから反米統一戦線に敵対する立場においているのである。もしソ連共産党新指導部が真にアメリカ帝国主義に反対し、真にアメリカ帝国主義に反対する実際行動を示すならば、われわれはよるこんでかれらと共同行動をとるものである。しかし、現在のソ連共産党新指導部のいわゆるアメリカ帝国主義に反対するというのは、口先だけのものであって、真実のものではない。卒直にかれらにいつておくが、ソ米が協調して世界革命に反対するというかれらの路線が変わらない限り、また、かれらがアメリカ帝国主義や反動派と結んだ同盟を解消しない限り、われわれは絶対にかれらと「共同行動」などというものをとることはできない。われわれは絶対に、アメリカ帝国主義と秘密外交をすすめるかれらの道具になることはできないし、またアメリカ帝国主義が各国人民の革命を弾圧するのをたすけるかれらの行動をかばってやることもできない。

### ソ連共産党新指導部はベトナム問題で アメリカと共同行動をとっている

ソ連共産党新指導部は、ベトナム人民の反米闘争が緊迫しているいま、共産主義者の間にきわめて重大な意見の相違があつても、ベトナム問題では「共同行動」をとるべきである、ととめどもなく、しゃべりまくっている。

ソ連共産党新指導部がプロレタリアートの国際的団結の基礎を破壊し、敵味方の関係を転倒させ、ソ米が協調して世界を支配するという路線を固持しているのに、マルクス・レーニン主義政党はそれでもなお、ベトナム問題で、かれらと共同行動をとることが出来るだろうか。

もともと、アメリカ帝国主義が気遣いのようにベトナムを侵略している状況のもとでは、各国共産党と社会主義諸国は、当然一致した立場に立ち、断固としてベトナム人民の正義の闘争を支持し、アメリカ帝国主義の侵略を粉碎すべきである。問題は、ソ連共産党修正主義指導グループのベトナム問題における立場がかれらの修正主義の綱領、路線と切りはなせないものであり、マルクス・レーニン主義政党の当然とるべき原則的な立場と相反したものだということにある。

フルシチョフが政権の座にあつたとき、ソ連共産党修正主義指導グループは、公然とアメリカ帝国主義の側に立ち、ベトナム人民の反米革命闘争に反対し、それになんかして破壊活動をおこなつた。かれらは、「どんなに小さな『局地戦争』でも、世界大戦という火災をひきおこす一つの火花となる」<sup>⑤</sup>というデタラメな議論をもちだ

して、革命的武装闘争をすすめている人民をおどしたり、威かくしたりした。そして、ベトナム人民の反米闘争を支持し、援助することを公然と拒否した。ベトナム人民とラオス人民の反米闘争が先鋭化したとき、かれらはインドシナ問題で「逃避政策」をとった。一九六四年七月、かれらは、ソ連政府はジュネーブ会議共同議長をやるめらるう、といひだした。それからまもなく、アメリカ帝国主義がバック・ポー湾事件をデッチあげたとき、フルシチョフはあろうことか、デマをとばして、この事件は中国がひきおこしたものであると中傷した。

だが、ベトナム情勢は、フルシチョフ修正主義者の願ひとはまったく正反対の方向へ発展している。ベトナム人民の反米革命闘争はたえず勝利をおさめ、アメリカ侵略者はひじょうに大きな困難にぶつかっている。ソ連共産党新指導部は、フルシチョフのあの「逃避政策」をそっくりそのままもってきたのでは、もはやだめだとみてとった。そこでかれらは、介入政策をとることに改めたのである。

介入政策にしる、逃避政策にしる、その本質はいづれも同じで、フルシチョフ修正主義の産物であり、またアメリカ帝国主義の必要にこたえることから生まれた産物である。

アメリカ帝国主義にとつては、ベトナム人民の革命の烈火を消しとめることがさし迫つて必要である。フルシチョフ修正主義者にとつても、かれらのいわゆるソ米が協調して世界を支配するという路線を貫くためにはベトナム人民の革命の烈火を消しとめることが、さし迫つて必要である。以前、フルシチョフは「逃避政策」をとっていたが、これはケネディと密接に呼応しあつていたのである。現在、ソ連共産党新指導部は介入政策をとつてゐるが、これもまた、ジョンソンと互いに默契をかわし密接に協力しあつてゐるのである。

つぎの事実をみていただきたい。

一九六五年一月、アメリカ帝国主義はソ連政府にたいし、ソ連の影響力を發揮してベトナム民主共和国につき二つの条件をうけいれさせるよう要求した。第一、ベトナム南部への支持、なによりもまず銃砲の供給を停止すること。第二、ベトナム南部の都市にたいする襲撃を停止すること。ソ連共産党新指導部はベトナム人民を無条件降伏に追い込もうと妄想するアメリカ帝国主義のこうした理不尽な要求をいわれるままに、公式にベトナム民主共和国へ伝達した。

アメリカ侵略者がベトナムで活路をみつけたすためにあせりだすと、ソ連共産党新指導部は早速かれらのためにすすんで奔走した。一九六五年二月、ソ連閣僚会議議長コスイギンはベトナム訪問の途中北京に立ちよつたが、中国指導者との意見交換の過程で、かれは、「ベトナムで活路をみつけたせう」アメリカをたすけてやらなければならない、と強調した。このとき、かれは中国の指導者から手きびしい反ばくをうけた。われわれは、かれらがベトナム人民の闘争を支持し、ベトナム問題をもつてアメリカと取引しないよう希望すると、表明した。コスイギンはわれわれの意見に同意を示し、ソ連共産党新指導部は「この問題をもつて他人と取引することはない」と言明した。しかし、ソ連共産党新指導部は、まもなく、自分の約束にそむいてしまった。

ジョンソンが「無条件討議」のペテンをデッチあげる必要にせまられると、ソ連共産党新指導部はただちに「無条件交渉」の主張を提起した。今年の二月十六日、つまりコスイギンがモスクワに帰着した翌日、ソ連政府はベトナムと中国にたいして、インドシナ問題にかんする前提条件のない新しい国際会議を開催するという提案を正式におこない、事実上、ベトナム問題の「無条件交渉」を主張した。二月二十三日、ソ連共産党新指導部はこの提案に反対するベトナム政府の立場を無視し、また中国側の回答をまたずに、フランス駐在ソ連大使を通じ

て、フランス大統領と上述の国際会議開催の問題について意見を交換した。

ジョンソンの「無条件討議」のペテンはベトナム民主共和国政府のきびしい拒否にあった。すると、ソ連共産党新指導部は公開の場において、ことばをにこしながら、アメリカがベトナム北部爆撃を停止しさえすれば、交渉をおこなうことができる、と表明した。かれらはこの主張を実現するために、国際的に積極的な活動をすすめた。ソ連共産党新指導部は一部の兄弟党におくった通知のなかで、かれらはアメリカと交渉することを主張する、条件はアメリカがベトナム北部爆撃を停止することである、とひじようにはつきりのべた。かれらはそのうえ、交渉の道を通じてベトナム問題を解決する方策と手段を探索しなければならぬ、と表明した。それからまもなく、ジョンソンはたして、「爆撃一時停止」という手をつかったのである。

「無条件交渉」と「爆撃の停止、話合いの挙行」という二つのペテンが壁にぶつかってからも、ソ連共産党新指導部はアメリカ帝国主義の手下であるインド反動派やチトー一味と手を組んで、またもベトナム問題でブローカーの役目をつとめた。ベトナム問題を解決する方法について、かれらはただ、アメリカのベトナム北部にたいする爆撃停止だけを主張したり、ジュネーブ協定の実施などということを抽象的に口にしたりするだけで、この協定を実施するカギが全アメリカ侵略軍のベトナムからの撤退にあるということについてはふれていない。ソ連共産党新指導部はさらに、一連の秘密外交活動をおこなっている。要するに、ソ連共産党新指導部は、アメリカが「平和交渉」をデッチあげて、際限なく話合いをつづけ、いつまでも南ベトナムに居すわろうとするのをたすけようとしているのである。

ソ連共産党新指導部は、アメリカ帝国主義の御機げんをとりむすぶために、あろうことか、ソ連に留学中のベトナム、中国およびアジア、アフリカ、ラテンアメリカのその他の国々の学生がおこなった反米・ベトナム支援のデモ行進に血なまぐさい弾圧を加えた。

注目をひくのは、ことしの四月、ソ連共産党新指導部が引退させられていたフルシチョフをひっぱりだしてきて、西側の記者に談話を発表させたことである。そのさい、フルシチョフは「平和共存」をさかんに宣伝し、ベトナム人民の反米闘争を攻撃して、「面倒なことはいつもベトナム問題のような小さなことからおこるもので、それは最後には一つの災難として終わるものである」<sup>⑩</sup>などといった。これは偶然のことではない。これは、かれらもフルシチョフと同じように、ベトナム問題というこのいわゆる「小さな面倒なこと」がソ米協調とかかれらの甘い夢を破りはしないかとおそれていることを証明している。

ソ連共産党新指導部がやっていることは、フルシチョフの例のやり方と同じで、ベトナム問題をソ米協調の軌道にのせようとするものにはかならない。かれらがこうも緊密にアメリカ帝国主義者と共同行動をとっている以上、マルクス・レーニン主義者がかれらといっしょになって、「共同行動」などというものをとることができないのはいうまでもないことである。

化けの皮をはいでみれば、ソ連共産党新指導部がベトナム問題で「共同行動」などと騒ぎたてているのは、このスローガンがひじように大きな欺まん性を持ち、ソ米協調による世界支配に血道をあげているソ連共産党新指導部でも、なおみんなと「共同してアメリカ帝国主義に反対する」ことができるかのような錯覚を人に与えやすいからである。かれらは、こうして、反米戦線の内部にもぐりこんで、アメリカ帝国主義に奉仕する介入政策をおしすすめようとしているのである。

ソ連共産党新指導部がどのようにベトナム「援助」の手くだをもてあそんでいるかに、ちょっと目を向けさせれば、かれらの介入政策がどんなものであるかはいつそう明白になる。

われわれは、つねに、兄弟のベトナム人民を援助することは社会主義陣営諸国の道義上ことわることを許されないプロレタリア国際主義の責務である、と考えている。反米闘争の最前線に立つベトナム人民は、社会主義諸国の援助を要求し、受け入れる理由と権利を十分にもっている。わが中国はベトナム人民にできるかぎりの援助をおこなってきた。もし、ほんとうにベトナム人民の反米闘争を援助しようという気持ちがあるならば、そうした援助は多ければ多いほどよく、実用に適すれば適するほどよい、とわれわれはなんどもいつてきた。だが、ソ連共産党新指導部はどうであろうか。かれらがベトナムに供与した援助は、量においても、質においても、ソ連の国力にきわめてそぐわないものである。かれらはいくらかのものを援助したが、それは、下心のあるものであり、国内、国外の人民をだまし、ベトナム情勢を左右し、ベトナム問題で発言権をかちとり、ベトナム問題でアメリカ帝国主義と取引しようとねらったものである。

アメリカ帝国主義は、ソ連共産党新指導部のこの手を十分にのみこんでいる。アメリカ帝国主義者は、ソ連共産党新指導部がベトナム問題に介入するのは自分にとつて有利だということをよく知っている。かれらは、ソ連共産党新指導部がベトナムに「援助」を提供することに反対しないばかりか、ソ連共産党新指導部がそうするのを歓迎している。アメリカ当局は、ベトナム問題にソ連が関与するのはしないよりむしろ、とはつきり表明している。アメリカの新聞・雑誌は、「アメリカ軍がまだ南ベトナムに在る間に、ソ連の軍隊を北ベトナムに駐留させるような措置を最後には見つけたせるかも知れない」、「ソ連が軍事上いつそう直接的にまきこまれること

もつ素晴らしい利点は、米ソがこの地域で直接取引の関係をうちたてるところにある」⑩とのべている。事実、ソ連共産党新指導部は、さまざまなルートを通じて、ベトナムにたいするかれらのいわゆる「援助」の内容をアメリカ人にもらしている。この問題でも、かれらはアメリカ帝国主義と共同行動をとっているのである。

ソ連共産党新指導部は、また、ベトナム「援助」という名目を利用して、しきりに「中国はソ連のベトナム援助のための軍需物資の輸送を妨害している」というデマをとばし、さかんに反中国活動をおこなっている。ベトナムの同志の同意した、ソ連の供与する軍需物資については、われわれは、すべて取り決めたが、できるかぎりの力を尽して、すみやかにベトナムへ送っている——これが事の真相である。かれらのこうしたデマと中傷は、アメリカと連合して中国に反対するためには、かれらは手段を選ばないものだということを、いつそうはつきりと証明している。

マルクス・レーニン主義者は現象をとおして本質を見なければならぬ。われわれは、ソ連共産党新指導部がこの一年間にベトナム問題で示してきたいろいろなるまいを注意深く観察してきたが、その結果つぎのような結論しかひき出すことができない。それは、ソ連共産党新指導部がベトナム問題でこんな力こめて「共同行動」をわめきたて、あらゆる手をうってソ連、ベトナム、中国の三ヶ国最高級会議をひらき、社会主義国と兄弟党の国際会議をひらこうとしているのは、これを口実にして全世界をあざむくためであり、兄弟国をソ米協調による世界支配という馬車にしばりつけるためであり、ベトナム問題をソ米両国の取引の重要な数取り棒にするためであり、マルクス・レーニン主義を堅持する中国共産党とその他の兄弟党を孤立させ、これらの党に打撃を与えるため以外のなものでもない。

事態はきわめて明白である。ベトナム問題で、もし、われわれがフルシチョフ修正主義路線を実行しているソ連共産党新指導部と共同行動をとるなら、それは、かれらが世界の人民をだますのをたすけることになるではないか。それは、かれらがベトナム問題をソ米協調の軌道にのせるのを助けることになるではないか。それは、かれらといっしょになってベトナム人民の革命事業を売り渡すことになるではないか。それは、かれらといっしょになって中国共産党とその他のマルクス・レーニン主義政党に反対することになるではないか。それは、かれらとともにアメリカ帝国主義の共犯者になれということになるではないか。いうまでもなく、そんなことは絶対にやれることではない。

### 「わゆる「共同行動」とは

#### 分裂主義をおしすすめる手段である

ソ連共産党新指導部が「共同行動」をわめきたてているのは、偽善的な言葉のもとで、かれらの大団排外主義と分裂主義をおおいかくし、おしすすめるためである。ソ連共産党新指導部は、一致団結をかちとり、兄弟党間の関係を改善する面で、ソ中関係を改善する面で、「一連の重要な措置をとった」といつている。では、かれらがいっつたい、どんな措置をとったのかをみてみよう。

悪名を後世に残したモスクワ三月会議はソ連共産党新指導部が「共同行動」のスローガンをかけて、開いたものにはかならない。フルシチョフの修正主義と分裂主義は、実際には、すでに国際共産主義運動の分裂をまねいている。ソ連共産党新指導部がすべてを無視して三月会議を開催したのは、国際共産主義運動を公然と分裂さ

せるきわめて重大な措置であった。この会議の後も、ソ連共産党新指導部は一連の活動をおこなって三月会議の分裂主義の路線をひきつづきおしすすめてきた。

ソ連共産党新指導部は全党と全人民の間で中国共産党に反対する狂気じみたカンパニアをくりひろげている。かれらは機関、学校、工場、農村で、広く反中国の講演を組織し、ほしいままに中国を攻撃し、中傷している。しかも、いくつかの反中国の講演は、中国の同志の面前でおこなわれているのである。かれらは人を世界各国へひん繁に派遣して専門に反中国活動をおこなわせ、いたるところで種々さまざまな反中国のデマをまきちらしている。また、かれらは国際団体と国際活動のなかで、手段を選ばず反中国の陰謀をおしすすめている。

ソ連共産党新指導部はひきつづき、フルシチョフのアルバニアに反対する政策を固持している。アメリカ帝国主義や日本反動派と結託して、日本共産党の裏切者志賀らを支持するかれらの犯罪的活動はひどい失敗にあったが、それでも、かれらはあきらめず、日本共産党にたいして、いまなお反革命の破壊、転覆活動をおこなっている。かれらはひきつづき、マルクス・レーニン主義を堅持しているインドネシア共産党、ニュージーランド共産党およびその他の兄弟党に攻撃を加え、これらの党にたいしてさまざまな破壊、転覆活動をすすめている。

ソ連共産党新指導部は各国共産党と社会主義諸国にたいして、ひきつづき圧力を加えたり、破壊、転覆活動をおこなったりする手口をとるとともに、いっそう陰險に籠絡、買収、欺まん、離間などという手口をもとっている。かれらはフルシチョフ修正主義に断固反対している中国共産党を、かれらが孤立させ、集中攻撃を加える主要な対象にしている。

ソ連共産党新指導部は国際的大衆団体のなかで、「共同行動」のスローガンをかけて、反米をおこなわな



い、革命を支持しないという投降路線をひきつづきおしすめ、反帝の団結を分裂させる活動をおこなっている。かれらはフルシチョフの使い古した手口をくりかえし、卑劣な手段を用いて、舞台裏であやつたり、おおつびらにかく乱したり、はてはテールブルをたたき、足をふみならすなどの茶番劇さえ演じている。

ソ連共産党修正主義指導グループは、「共同行動」の名のもとに、その「おやじの党」という地位を復活させ、ひきつづき指揮棒を振りまわして、各国共産党と社会主義諸国を、きようはこれをやれ、あすはあれをやれと、かれらの思うままにこき使おうと夢みている。だが、実際には、かれらのあおした羽振りはとつくのむかしに、きかなくなっている。こんにち、ソ連共産党新指導部とその追従者はいつしよになつてはいるが、それはただ利害関係を土台としているにすぎず、めいめいは思い思いのソロバンをはじいているのである。ソ連共産党新指導部の指揮棒はますますき目がなくなつてきているのである。

これまでの事実が示しているように、もしどこかの国の共産主義者がソ連共産党指導部の修正主義、大国排外主義、分裂主義という一連のやり方をうけいれたならば、その国の革命事業は損害と破壊をこうむり、その国の共産党は腐食され、墮落し、ひいては退化変質する。そして、その国やその党はひたすら他人のいいなりになるばかりで、その立場はたいへん悪くなる。それに反して、ソ連共産党指導部のあのやり方をあくまで排除し、それに反対しているもの状況はそれとまったく異なり、その立場はひじょうによくなつてはいる。いまでも、事態はやはりこのとおりである。

ソ連共産党新指導部が「共同行動」をとなえるねらいの一つは、ほかでもなく、公開論争を停止させようとするにある。かれらは、思いのままにフルシチョフ修正主義をおしすすめるために、マルクス・レーニン主義

者の口をふさぎ、マルクス・レーニン主義者にかれらを暴露、批判させないようにしようと考えている。

そんなことがどうして許されるだろうか。いまおこなわれているこの大論争は、国際共産主義運動のなかで、なにがすでに腐朽したものであり、なにがすでに衰退したものであるのか、なにが今後の発展と勝利の方向であるのかを、もつともあざやかな、もつともきわだつた形で示している。フルシチョフ修正主義は完膚なきまで論破されて、すでに世界革命という畑のよいこやしになつてしまつてはいる。真理は論ずれば論ずるほどあきらかになり、革命的自覚も論ずれば論ずるほど高くなり、革命的意気込みも、論ずれば論ずるほどさかになる。われわれは、かならずこの論争を最後までおしすすめ、原則的な是非にかかわる問題を徹底的にあきらかにしなければならぬ。そうしなければ、全世界人民の革命事業にとって、また帝国主義に反対し世界平和を守る事業にとつて、きわめて不利となる。

ソ連共産党新指導部が「共同行動」をとなえるもう一つのねらいは、マルクス・レーニン主義政党にいわゆる「分派活動」を停止させようとするにある。かれらはプロレタリアートの革命政党をたてなおしたり、あるいは新しくつくつたりするためにたかかっているマルクス・レーニン主義勢力を圧殺しようと考えているのである。これら新生の革命勢力にたいする中国共産党とその他のマルクス・レーニン主義政党の支持を制止しようと考えているのである。

いま、多くの国でマルクス・レーニン主義者が修正主義グループとけつ別して、マルクス・レーニン主義的な政

党や組織をたてなおしたり、新しくつくつたりしているのは、ソ連共産党指導部が修正主義、大国排外主義、分裂主義を實行してきた必然的な結果であり、これら諸国のマルクス・レーニン主義者が修正主義者とたたかつてき

た必然的な結果であり、国際的階級闘争と国内の階級闘争が日ましに深まっていく状況のもとで革命勢力が再編成されてきた必然的な結果である。

これらの国ぐにの共産党の指導グループは、フルシチョフ修正主義の指揮棒にしたがって、自党の党員に、帝国主義や反動派のよろこぶこと、あるいはその許すことをやらせるだけで、帝国主義と反動派がもつとも恐れていることはいっさいやらせない。もし、そうしなければ、その人は打撃をくわえられ、処分され、除名されるのである。こうした状況のもとでは、これらの党の内部の誠実なマルクス・レーニン主義者は修正主義指導グループとけつ別するよりほかなくなるし、真のマルクス・レーニン主義的な革命政党と組織の建設と発展もさげられなくなる。

革命には道理があり、帝国主義反対には道理があり、修正主義反対には道理がある。古くて腐りきった修正主義グループを投げすてて、別に革命的な政党を建設するのは天下の公理である。

マルクス・レーニン主義を堅持し、革命を堅持する世界のあらゆる勢力を、われわれは断固として支持する。全世界のすべてのマルクス・レーニン主義勢力との共同行動を強化することこそ、われわれの崇高なプロレタリア国際主義の責務である。

### いわゆる「共同行動」とは

#### ソ連人民をだますスローガンである

ソ連共産党新指導部は、社会主義諸国の間には「同じ型の社会経済制度」があり、「社会主義、共産主義を建

設するという共通の目標」があるといっている。これも、かれらが「共同行動」をいふらす理由の一つである。

これは一種の目つぶしである。ソ連共産党新指導部は、フルシチョフの後じんを拝し、「共産主義」を実行するという名目で、ソ連をいつそう資本主義へと変質させている。かれらは、フルシチョフと同じように、「全人民の国家」というスローガンのもとで、ソ連のプロレタリアート独裁を解消し、ソビエト国家を、ソ連人民を支配するブルジョア特権階層の道具に変質させている。かれらは、フルシチョフと同じように、「全人民の党」というスローガンのもとで、ソ連共産党のプロレタリア政党としての性格を変え、それをブルジョア特権階層の利益に奉仕する政党に変えている。

ソ連共産党新指導部は、スターリンにたいする評価で、フルシチョフといくらか違うようにみせかけているが、これは広範なソ連人民とソ連共産党員の不満をやらげるためのものにすぎない。かれらは、スターリンを全面的に否定したフルシチョフの誤りを批判しなかつたばかりか、フルシチョフと同じように、スターリンの指導していた時期を「個人迷信の時代」などといっている。かれらは、数えきれないほどの論文、著作、文芸作品を発表して、ひきつづき、各方面から偉大なマルクス・レーニン主義者スターリンを戯画化し、プロレタリアート独裁を戯画化し、社会主義制度を戯画化している。

ソ連共産党新指導部は、自分の手中にある国家権力を利用し、力を集中して社会主義の経済的土台を破壊し、社会主義の全人民的所有制と社会主義の集团的所有制を破壊し、新しい搾取制度をうちたて、発展させ、新しいブルジョアジーを養成し、もりたてて、資本主義復活の歩みをはやめている。

さいきん開かれたソ連共産党中央委員会総会でソ連閣僚会議議長コスイギンのおこなった、工業問題にかんする報告と、この会議で採択された決議は、ソ連の経済が資本主義復活の道に大きく歩をすすめたことを示している。

ソ連共産党新指導部は、フルシチョフの時期にはじめられた、社会主義の全人民的所有制の企業を資本主義的な性格の企業に変質させる実験を、党の決議、政府の法令という形式で確定して、全国的に普及させている。これらが実施しているいわゆる工業管理の「新しい体制」の核心は、いわゆる「経済的刺激的強化」を通じて、資本主義の利潤原則を貫き、利潤追求を企業生産の基本的な原動力とすることである。かれらは、企業の自主権を拡大するという名目で、もとは国家が計画にもとづいて企業に与えていた一連の重要な目標数字を取り消して、社会主義の計画経済を資本主義の自由競争にとつてかえた。かれらは、企業の責任者に、労働者を雇用、解雇する権限、労働者の賃金水準、奨励金をきめる権限、大量の資金を自由に運用する権限を与えて、企業の責任者が実際には企業の主人となり、勝手きままに労働者を欺まん、抑圧し、労働者の労働の成果を横どりすることができるようになった。これは、実際には、資本主義の復活をすすめているのであり、社会主義の全人民的所有制をブルジョア特権階層の所有制に変え、一步一步ソ連の社会主義企業を特殊な型の資本主義企業に変えているのである。これは「新しい創造」などというものではなく、ユーゴスラビアのチトー一味の資本主義を復活させた古い「経験」を踏襲し、発展させたものにすぎない。

マルクス・レーニン主義の常識がわれわれに教えているように、管理制度は生産関係の分野に属しており、それは所有制の一種の表現形態なのである。ソ連共産党新指導部は管理制度の改革という看板をかかげて、根底から全人民的所有制を破壊した。ユーゴスラビアのチトー一味がちょうどこのとおりをやったのである。ソ連共産党新指導部は道理を欠いていかにも自信なげに、ソ連経済の「ブルジョア的変質」をいうものこそ「ブルジョア思想家」であり、「敵」<sup>⑧</sup>である、などとわめいている。チトー一味もまさにこのとおりだったのである。これは、金を隠した場所に「銀三百両ここになし」と記した立札をたてるようなものである。

ソ連共産党新指導部は農村においても、資本主義を急速に発展させ、個人所有の経済を拡大し、自留地を拡大し、個人飼育の家畜をふやし、自由市場を拡大し、自由取引を奨励している。かれらは、さまざまな経済的、行政的手段を運用して、新しい富農経済の発展をはげまし、たすけ、社会主義の集団経済を全面的に破壊し、崩壊させている。

フルシチョフはソ連の農業に驚異的な大破壊をもたらした。ソ連共産党新指導部は政権の座についてのち、「農業生産を急速に高める科学的根拠のある綱領」<sup>⑨</sup>を制定した、といふふらした。だが、この一年らい、ソ連の農業は相変わらず、まったくひどい状態にあり、ソ連人民の生活にきわめて大きな困難をもたらしている。かれらはいま、その責任をことごとく、失脚したフルシチョフにおしつけている。ところが、実際には、それはかれらがいっそう力を入れてフルシチョフ修正主義をおしすすめてきた重大な悪結果にはかならないのである。

事実が立証しているように、ソ連共産党新指導部がフルシチョフにとつてかわつたことは、あらゆる反動的支配階級が自分の支配を維持するために、やむをえず馬をとりかえるのと同じで、修正主義王朝の人事異動にすぎないのである。フルシチョフは失脚した。しかし、ソ連共産党の指導グループというこの一座は、やはりフルシチョフのもと的一座であつて、組織面では基本的に変わらず、思想的、政治的、理論的、政策的にも依然として

フルシチョフ修正主義の例のやり方をつづけているのである。

レーニンはかつて、「日和見主義は偶然の現象でもなく、個々の人間の罪過、失策、裏切りでもなくて、歴史的な時代の社会的産物である」<sup>②</sup>と指摘した。フルシチョフ修正主義を生みだした社会的基礎と階級的根源が依然として存在し、ブルジョア特権階層が依然として存在するがぎり、フルシチョフ修正主義も必然的に存在するのである。

ソ連共産党新指導部がフルシチョフと同様、ソ連のブルジョア特権階層の政治的代表であるからこそ、かれらのおつている対外政策と国内政策はプロレタリアートの政策ではなくて、ブルジョアジーの政策なのであり、社会主義の政策ではなくて、資本主義の政策なのである。かれらはフルシチョフと同様、ソ連人口の九〇パーセント以上を占めるソ連人民にたいして敵対的地位に立っており、ソ連人民の日まじに強まる不満と反対にぶつかっている。

ソ連共産党新指導部は、いま、社会主義諸国には「同じ型の社会経済制度」が存在しているなどとわめいているが、そのねらいは、ほかでもなく、かれらがソ連で資本主義を復活させている事実をおおいかくし、われわれにかれらを暴露させず、しかもソ連人民に中国反対を扇動しようとするところにある。

われわれのみるところによれば、ある社会主義国に修正主義グループがあらわれ、資本主義の復活があらわれた場合、全世界のマルクス・レーニン主義者にはすべてそれを暴露し、それと闘争する責任がある。これが唯一の正しい原則的な立場である。ソ連共産党修正主義指導グループがソ連で資本主義を復活させている事実を断固暴露することこそ、偉大なソ連人民の根本的利益になつており、それこそソ連人民にたいする真の支持なのである。

ある。

もし、われわれがソ連共産党新指導部の修正主義の内外政策にたいして暴露と闘争をおこなわず、原則的な立場をすててかれらと「共同行動」などというものをとるならば、それこそソ連共産党新指導部の思うつぼであり、かれらがソ連人民をだますのをたすけることになる。そのようにすることは、社会主義革命の成果を守ろうとするソ連人民の闘争を支持するのではなくて妨害することになり、フルシチョフなきフルシチョフ修正主義に反対するソ連人民の闘争を支持するのではなくて妨害することになる。

毛沢東同志がつねね兄弟党の同志に語っているように、将来、中国で修正主義者が指導権を奪い取るという事態がおこつたならば、各国のマルクス・レーニン主義者は同じように断固とした暴露と闘争をおこなうべきであり、こうした修正主義に反対する中国の労働者階級と人民大衆を援助すべきである。同様の立場にもとづいて、われわれは、ソ連共産党修正主義指導グループを断固暴露し、かれらと一線を画し、フルシチョフ修正主義に反対する闘争を堅持することがわれわれの履行すべきプロレタリア国際主義の責務である、と考えている。

### フルシチョフ修正主義に反対する闘争を堅持しよう

世界の革命的人民は、いま、アメリカをかしらとする帝国主義およびその手先とはげしい格闘をおこなっている。当面の世界情勢の特徴は、国際的階級闘争が日まじに深まっている状況のもとで、いま大きな変動、大きな分化、大きな再編が進行しているということである。世界人民の革命運動は、めざましい勢いで発展しつつある。帝国主義およびあらゆる腐朽した反動勢力は、氣違ひじみた最後のあがきをこころみている。各種の政治勢

力は、いま世界的規模ではげしく分化し、あらためて編成されつつある。

世界人民の革命勢力は帝国主義の反動勢力をしのいでいる。世界人民の革命運動の前進——これが当面の情勢の主流である。各国人民の革命闘争はかならず勝利をかちとり、帝国主義、各国反動派、現代修正主義はかならず一步一步滅亡へ近づいていく——これは世界歴史発展の必然的な動向であり、いかなる腐朽した反動勢力も変えることのできないものである。しかし、帝国主義と反動派は、これをたたかなければ倒れず、現代修正主義も、これとたたかわなければ崩壊しない。かれらは、打倒されず、絶滅されないうちは、つねに、その全力をかたむけ、互いに呼応し、手を変え品を変えて、革命勢力に必死の攻撃をくわえてくるものである。こうして、革命運動が発展し、深まると同時に、反革命の逆流が形づくられる。国際情勢の発展には、不可避免的に矛盾と衝突がみちあふれ、曲折や反復があらわれる。世界各国人民の革命闘争は波状的に前進しないわけにはいかないのである。

反米闘争が緊迫しているときには、アメリカ帝国主義にとつて、フルシチョフ修正主義を利用する必要性がいつそう大きくなる。そのため、フルシチョフ修正主義に反対する闘争も不可避免的に激化の方向をたどるのである。

フルシチョフ修正主義に反対する闘争のなかで、人びとの認識はかならずしも一様ではない。とりわけ、フルシチョフ修正主義との闘争が激化した場合、こうした現象はいつそうはつきりとあらわれてくる。これは自然なことであり、避けられないことである。レーニンがのべたように、異常に激烈な変化のなかでは、人びとは「いきなり、多くのきわめて重大な問題に直面すると、このような高度の水準に長い間とどまっていることができな

い。かれらは、息抜きしないではいられず、基本的問題の復習に立ちかえらないうちはいられない。また、きわめて豊かな教訓を十分に『消化』し、比較にならないほど広範な大衆がいつそう断固とした、意識的な、確信にみちた、しつかりした態度で前進する可能性をもたらすような新しい準備活動をおこなわないではいられないのである」② いまあらわれている状況がちょうどこのとおりである。

フルシチョフ修正主義に反対する闘争が先鋭化し、深刻化するにつれて、革命の隊列のなかには、つねに新しい分化が不可避免的におこり、どうしても一部の人が革命の隊列から落伍していくものである。それと同時に、億万の革命的人民がたえまなく革命の隊列に加わってくるであろう。

このようにいりくんだ複雑な情勢に直面して、マルクス・レーニン主義者は原則を放棄したり、原則をあいまいにすることは許されず、かならず旗じるしを鮮明にし、革命的原則を堅持し、フルシチョフ修正主義に反対する闘争を堅持しなければならない。そうしてこそ、はじめて革命勢力の団結を強化、拡大することができるのである。

現在、各国のマルクス・レーニン主義政党のまえによこたわっている任務は、アメリカ帝国主義のお先棒をかつぐ修正主義分子と政治的、組織的に一線を画し、フルシチョフ修正主義をとりのぞいて、アメリカ帝国主義とその手先に反対する革命闘争の高まりを迎えることである。

究極においては、ソ連を含めた全世界の人口の圧倒的多数を占める人民大衆、圧倒的多数の共産主義者と幹部は革命を望んでおり、マルクス・レーニン主義を擁護するものである。かれらはしだいにめざめ、帝国主義、修正主義に反対する闘争の隊列に身を投じつつある。全世界の九〇パーセント以上の人びとは、かならず帝国主

義、各国反動派、現代修正主義に反対する闘争のなかでいつそう団結するであろう。

全世界の共産党とすべての社会主義国家は、究極的には、マルクス・レーニン主義とプロレタリア国際主義の基礎のうえに団結するであろうし、究極的には、帝国主義に反対する闘争のなかでの共同行動を実現することができるであろう。ちょうどレーニンが旧修正主義者にたいしてのべたように、世界的にみれば、プロレタリアーは遅かれ早かれ統一するであろうし、また、かならず勝利をかちとるであろう。「しかし、きみたちに反対してこそ、この勝利ははじめてやってくるのであり、またかならずやってくるであろう。そして、なしとげられるのであり、また、かならずなしとげられるであろう。この勝利もきみたちにたいする勝利にはかならない」<sup>(22)</sup>

ソ連共産党新指導部がなおフルシチョフなきフルシチョフ主義を實行し、誤りを認めず、改めず、マルクス・レーニン主義の革命の道にほんとうに立ちもどつてこないかぎり、フルシチョフ修正主義に反対する闘争を放棄するようマルクス・レーニン主義者に期待しても、それは絶対にできない相談である。

「宣將勇追窮寇、不可沽名学霸王」(余勢をかつて、逃げ場を失つた敵を追いつめるがよい。虚名を得ようとして霸王項羽のまねをしてはならない) 訳注) この二句の詩は、きわめて重要な歴史的教訓を要約している。マルクス・レーニン主義者と世界の革命的人民はかならず勝利に乗じて、追撃し、フルシチョフ修正主義に反対する闘争を最後までやりぬかなければならない。

## 注

① 「エンゲルスからA・ベーベルへの手紙」『マルクス・エンゲルス書簡集』

② 「エンゲルスからA・ベーベルへの手紙」『マルクス・エンゲルス書簡集』

③ 「マルクス、エンゲルスからA・ベーベル、W・リープクネヒト、W・ブランケらへの手紙」(通告書七)『マルクス・エンゲルス書簡集』

④ 「A・A・ヤクーボバへ」『レーニン全集』第三十四卷

⑤ 一九六四年十月十九日ソ連宇宙飛行士歓迎大会におけるブレジネフの演説

⑥ ポドゴルスイ「偉大な十月」『社会主義キューバ』誌一九六四年十一月号

⑦ 『労働者階級の国際革命運動』ポノマリョフ責任編集、ソ連政治書籍出版局発行  
⑧ 同右

⑨ 『コムニスト・ソビエツコイ・ラトビイ』誌一九六四年第十二号

⑩ ソ連『コムニスト』誌一九六四年第十八号

⑪ 『労働者階級の国際革命運動』ポノマリョフ責任編集、ソ連政治書籍出版局発行

⑫ ソ連『コムニスト』誌一九六四年第十七号

⑬ 「統一」『レーニン全集』第二十卷

⑭ 一九六四年十二月七日国連総会におけるグロムイコの発言

⑮ 一九六〇年七月八日ウイーンの記者会見におけるフルシチョフの談話

⑯ 一九六五年四月六日付イギリス『デイリー・エクスプレス』紙

⑰ 一九六五年四月十二日付アメリカ『ニューリーダー』紙の論文

⑱ 一九六五年九月二十七日ソ連共産党中央委員会総会におけるコスイギンの報告

- ⑱ 一九六五年三月二十八日付『ソビエツカヤ・ロシア』紙の社説  
 「第二インターナショナルの崩壊」『レーニン全集』第二十一卷
- ㉑ 「マルクス主義の歴史的発展の若干の特質について」『レーニン全集』第十七卷
- ㉒ 「帝国主義と社会主義の分裂」『レーニン全集』第二十三卷

ソ連共産党新指導部の  
 いわゆる「共同行動」を反ばくする

1965年 初版発行

定価 40 円

出版者 外文出版社

(北京阜成門外百万荘)

発行者 中国国際書店

(北京 P. O. Box 399)

編号: (日)3050-1353

3-J-709P  
 00022

★ 既刊図書案内(一部分) ★

時事問題

ベトナム人民を支援し  
アメリカ侵略者をうちやぶろう  
(第一四集)  
ベトナム人民はかならず勝利する  
アメリカ侵略者はかならず敗北する(写真集)  
第一集 40  
第二集 50 40  
三千万ベトナム人民のおごそかな誓い  
アメリカの武力侵略に反対する  
ドミニカ人民を支持する 40

理論著作

人民戦争の勝利万歳  
中国人民解放軍の民主的伝統  
人民は日本ファシズムに打ち勝った  
人民はかならずアメリカ帝国主義にも  
打ち勝つことができる  
レーニン主義の偉大な勝利  
(レーニン生誕九十五周年を記念して)  
上製 並製  
プロレタリアート独裁の歴史的経験 40 40 60 40  
反ファシスト戦争の歴史的経験  
ドイツ・ファシストにたいする勝利を  
記念しアメリカ帝国主義に反対する  
たたかいを最後まですすめよう  
哲学・社会科学工作者の戦闘的任務  
林彪 40  
賀竜 50 40  
羅瑞卿 40  
羅瑞卿 40  
周揚 50 40  
「人民日報」編集部

インドネシアの

アリアルハム社会科学学院での演説  
中華人民共和國第三期全国人民代表大会  
第一回会議主要文獻

中国の社会主義的工業化と農業集団化  
前進する人民公社

わが国青年の革命化のためにたたかおう  
文化戦線における大革命

革命の後継者の養成は党の戦略的任務である  
戦術的には十をもって十にあたり

中国革命における農民問題  
政治工作はすべての工作の生命線である

文学、写真集、その他

辛亥革命  
ネオンの下の哨兵(脚本) 沈西製、漢雁、呂興臣、吳玉章、巴、金その他  
赤い女工さん(中国ルポルタージュ集) 周立波、肖木その他  
たたかいの行程(短編小説) 倪志福、李鳳恩その他  
わたしと祖国 胡万春、上製、並製  
新しい人間像(短編小説) 妖怪へんげを恐れぬ話  
馬良の神筆(民話集)  
中国の登山運動(写真集)  
新しい北京(写真集)  
中国写真選集  
薄一波 廖魯言 40 50  
陶鑄 胡耀邦 40 30  
彭真 柯慶施 陸定一 40 80  
李作鵬 50  
林一舟 肖述 50  
「紅旗」誌評論員 30  
吳玉章 130 160  
金その他 180  
肖木その他 320  
李鳳恩その他 60  
上製 150  
並製 120  
胡万春 270  
並製 400  
周揚 400  
羅瑞卿 400  
周揚 600

発行者 中国国際書局

北京 外文出版社

出版者



